

# 第214回 河川文化を語る会

「江戸時代中期の紀州流・井澤弥惣兵衛為永の業績について」  
(レジュメ1)

令和6年11月21日

日本河川協会主催  
彩の川研究会共催

千葉県立関宿城博物館 調査協力員 市川幸男

## 本日の主な内容

### 1、おさらい

- (1) 利根川東遷について
- (2) 関東郡代伊奈家について
- (3) 関東流と紀州流の比較について

### 2、井澤弥惣兵衛為永の主な業績

- (1) 見沼通船堀 皇太子殿下の行啓対応を含む
- (2) 見沼代用水の開削と見沼干拓
- (3) 飯沼干拓
- (4) 吉田用水の開削
- (5) 江連用水の開削
- (6) 手賀沼干拓
- (7) 江戸川中流部のシートカット、庄内古川の合流点引き下げ
- (8) 綾瀬川の浮き塚地先のショートカット
- (9) 小合溜井の構築、古利根川の江戸川合流点の締め切り、中川下流部の拡幅
- (10) 越後・紫雲寺潟の干拓
- (11) 木曾三川の分流計画策定

### 3、井澤弥惣兵衛に関する関連事項

- (1) 紀州流の師、大畑才蔵
- (2) 井澤弥惣兵衛の嫡男楠之丞正房と部下達
- (3) 事業推進に尽力した名主、町人達
- (4) 井澤弥惣兵衛為永のお墓、関連のお寺、神社等
- (5) その他

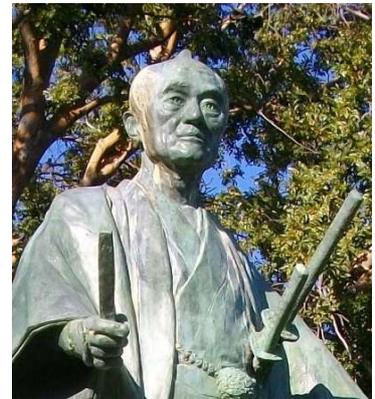
### 4、その他話題 (レジュメ3)

- (1) ご存じですか？へーそうなんだ！
- (2) 推論、私論

## (レジュメ2)

## 略歴書

姓	名	
いざわ	やそべえ	ためなが
井澤	弥惣兵衛	為永
本籍地	紀州藩 溝ノ口村	(現在の和歌山県海南市)
住所地	江戸 下谷	(現在の台東区下谷)
墓地	江戸 四谷 心法寺	(現在の千代田区麴町)
分骨墓地	武蔵 柴山 常福寺	(現在の白岡市)



(顔写真：見沼区  
見沼自然公園内銅像)

生年月日、没年月日					
西暦	年号	年	月	日	
1663	寛文	3			紀州溝ノ口村で生誕 (他説あり)
1738	元文	3	3	1	逝去 享年76才 (他説あり)

## 主な職歴

西暦	年号	年	月	日	職歴
1690	元禄	3			二代藩主光貞に召し出される。(紀州藩士に採用)。28才。
					紀州藩勘定奉行所に出仕。 三代綱教、四代頼職、五代吉宗、六代宗直に仕える。
1705	宝永	2			御勘定人格。45才。
1722	享保	7			江戸に召し出される。60才。
1723	享保	8	7	18	幕府勘定方。200俵。幕臣となる。
1725	享保	10	11	25	勘定吟味役格に昇格。300俵加増、合計500俵。
1728	享保	13	1		勘定吟味役の職務分担が明確にされる。官料300石加増。
1731	享保	16			勘定吟味役に昇任。本役。
1735	享保	20			美濃郡代を兼帯(兼務)。73才。笠松陣屋に赴任。(羽島)
1737	元文	2	9	5	病のため、美濃郡代を免ぜられる。
1737	元文	2	12	29	勘定吟味役も免ぜられる。寄合となる。

## 主な業務経歴

西暦	年号	年	月	日	場所	業務内容
1696	元禄	9			紀州	藤崎井用水、一期工事完成
1707	宝永	4			紀州	小田井用水、一期工事完成
1710	宝永	7			紀州	亀池開削完成
1722	享保	7			下総	小貝川・福岡堰築造(山田沼堰を廃止)
1724	享保	9			下総	吉田用水の開削開始。翌年完成。

1724	享保	9		下総	印旛沼干拓の計画
1725	享保	10		下総	飯沼の干拓。1月に起工、享保14年に完成。
1726	享保	11		下総	江連用水の開削
1727	享保	12		武蔵	綾瀬川の浮塚地先のショートカット
1728	享保	13		武蔵	見沼代用水の開削、見沼の干拓
1728	享保	13		武蔵・下総	江戸川中流部のショートカット、 庄内古川の江戸川合流点引き下げ
1729	享保	14		武蔵	古利根川の江戸川口の締め切り、 小合溜井の築造、中川下流部の開削
1729	享保	14		下総	手賀沼の干拓を指導。千間堤の築造。
1731	享保	16		武蔵	見沼通船堀の構築
1732	享保	17		越後	紫雲寺潟の干拓を指導
1736	元文	元		美濃	木曾三川の分流計画を作成

#### 主な賞罰

西暦	年号	年	月	日	恩賞内容
1723	享保	8	7	21	将軍吉宗に拝謁。
1725	享保	10	11	25	勘定吟味役格に昇格に伴い、布衣（ほい）着用が許される。
1731	享保	16			飯沼干拓完成の功により、300俵を賜る。
1736	元文	元			将軍吉宗に拝謁。金5枚を拝領。
1915	大正	4	11	10	大正天皇が、井澤弥惣兵衛為永を従五位下に追贈。

(レジュメ作成：千葉県立関宿城博物館 調査協力員 市川幸男)

## 第214回 河川文化を語る会

令和6年11月21日

後半の話題： (レジュメ3) 千葉県立関宿城博物館  
調査協力員 市川幸男

日本河川協会主催  
彩の川研究会共催

1、 ご存じですか？へーそうなんだ！

- (1) 「これは川ではない。滝だ。」と言ったのは、オランダ人お雇い講師のデ・レーケではなく、富山県の役人の陳情文書の言葉です。
- (2) 洪水調節池の「圍繞堤」の読み方は「いぎょう」ではなく、「いによう」が本来の読み方です。
- (3) 堤防破堤箇所のできる深掘れの穴、いわゆる「おっぼり」の漢字表記は「落堀」ではなく「押堀」が本来の表記です。
- (4) 平成27年鬼怒川洪水で溢水が発生した箇所は自然堤防ではなく、「鬼怒砂丘」と呼ばれる河畔砂丘です。
- (5) 玉川上水の建設の本当の主役は、玉川兄弟ではなく、老中首座の松平伊豆守信綱（知恵伊豆）です。
- (6) オランダ人お雇い工師のリンドが設置した水準標石の表記は、「ペトルメルクステトン」ではなく、「ペイルメルクステイン」が正解です。
- (7) 碓井峠の最大勾配66.7パーミルは、1/15勾配の意味です。
- (8) 二郷半領の別表記「二合半」についての言い伝え。【クイズです】

2、 推論、私論

- (1) 利根川東遷は徳川家康の構想、企画、指導したものではないのでは？  
後北条氏が、古利根川の川口・八甫の締め切りを行い、権現堂堤を築造したのが始まりと推察されます。
- (2) 見沼代用水の水路勾配の1ケタ異なる記述表記の疑問について
- (3) 玉川上水の建設費用の徳川幕府の負担額について  
九州北部河川の「野越」（のこし）は、「乗越し堤」（のりこしてい）→
- (4) 「乗越」（のっこし）の音便が読み間違いされたのでは？